

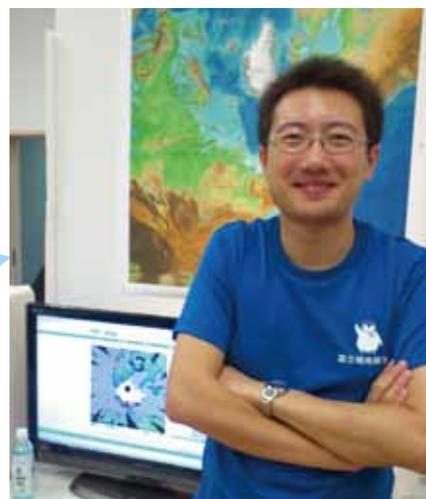
2014年10月号

今月のテーマは、
「北極域データアーカイブシステム
(ADS: Arctic Data archive System)」
です。



今月は「北極域データアーカイブシステム (ADS)」を紹介するよ！
紹介してくれるのは、照井 健志 (てるい たけし) さんです。

北極域データアーカイブシステム (ADS) は、北極域に特化したデータセンター基盤として、国立極地研究所に設立されました。北極域に関する多種多様なデータを収集しています。集められたデータの利用を促進するため、データ検索や可視化、データ解析が実行可能な Web サービスを提供しています。南極・北極科学館では北極ジオラマの前に大型ディスプレイを設置し、JAXA 提供の衛星画像を準リアルタイムで表示しています。このような、研究者にとっても面倒な衛星データの可視化を実現し、極域の“今”を伝えられる Web サービスを提供しています。



照井さんはどんなお仕事をしていますのですか？

元々は海洋生態系を数値モデル化し、コンピューターの中で再現することで、物質循環や環境中の生物応答について研究していました。モデル化する際に様々なデータを利用するので、データマネジメントが不可欠なのですが、国内外でそのような研究データに特化した仕組みは未整備です。それを実現するために、データマネジメントプラットフォーム (DPM) を開発しています。